

潮流発電事業へ  
流速調査を開始 五島

九電みらいエナジー  
五島市久賀島沖で計画さ  
れている围内初の大規模潮  
流発電実証事業で、実施主

体の九電みらいエナジー  
(福岡市)は25日、発電機  
を設置する奈留瀬戸の海底  
で流速調査を始めた。発表  
した。発電機や基礎構造を  
設計するのに必要な調査に  
入ったことで、事業が具体  
的に動き出した。

実証事業は環境省の委託  
事業で、期間は2016年  
19年度を予定している。最  
大出力2.5兆ワットの発電機(高  
さ27尺、重さ1200トン)  
を1基製造し、19年度に発  
電する。流速調査では45日  
間、機器を海底に置き、デ  
ータを収集する。その後、  
海底の土質なども調べる。  
事業の実施主体はほかに  
本県のNPO法人長崎海洋  
産業クラスター形成推進協  
議会、発電機製造を担うオ  
ープンハイドロ社(アイル  
ランド)の日本法人、新日  
鉄住金エンジニアリング  
(東京)。(田賀慶龍)

五島市沖で  
潮流発電調査

九電みらいエナジーなど  
九州電力子会社の九電  
みらいエナジーは25日、

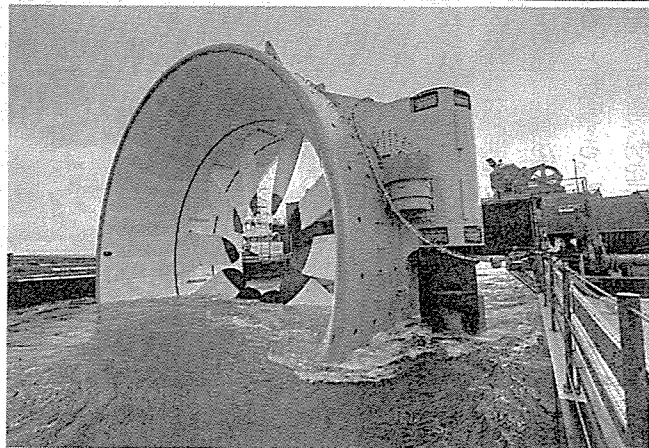
アイランドの潮流発電  
装置の開発企業、オーブ  
ンハイドロの日本法人や  
新日鉄住金エンジニアリ  
ングなどをつつったコン  
ソーシアムで長崎県五島

市沖の潮流調査を始めた  
と発表した。調査海域で  
出力2メガワットの大規模な潮  
流発電装置を海底に沈  
め、実証実験を行う計画  
で、設置海域の流速など  
を測る。

調査は45日間を予定。  
長崎の地場企業が参加す  
る長崎海洋産業クラスター  
形成推進協議会もコン  
ソに入っている。

(3)

電力・エネルギー／市場



実証事業の発電機を製作するオープンハイドロ社の潮流発電機（九電みらいエナジー提供）

# 五島で潮流調査を開始

## 九電みらいエナジー19年度に発電実証へ

九州電力子会社の九電みらいエナジー（福岡市、穂山泰治社長）は25日、長崎県五島市沖で実施する大規模潮流発電実証事業の一環として、潮流調査を開始したと発表した。調査結果を発電機と基礎構造の設計に反映する。調査期間は45日間で、並行して海域環境調査を計画している。その後、

発電機の設計・製作などを経て、2019年度に発電機を設置して実証運転を行う予定だ。調査は超音波多層流速計を使い、流速などを計測。発電機のブレードなどの設計に反映する。発電機は単機としては、世界最大級の2千キロワットの欧州製の発電機を採用する。今後は潮流の調査に

加え、海底面の土質調査、発電機に付着が想定されるフジツボなどの生物について調査を行う予定だ。

九電みらいエナジーは、国内外の3者とコンソーシアムを組んで、環境省の「2016年度潮流発電技術実用化推進事業」に選定された。実施期間は16年度から4年

間。大規模な潮流発電の実証としては国内初の取り組みになる。コンソーシアムの統括者である九電みらいエナジーはプロジェクトマネジメント、系統連系協議、許認可取得、運転管理などを実施する。

九州電力グループで潮流発電を手掛けるのは初めて。同社は実証を通じて国内の環境や技術基準などに適合した技術の確立を図り、潮流発電の日本での早期実用化を目指している。